



学薬のひろば



Vol. 016

新年明けましておめでとうございます。

学薬会員の皆様には、お健やかに新年を迎えられたことお慶び申し上げます。役員一同、本年も学薬活動の充実・発展に取り組んで行く所存でございます故、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、本年度は学薬制度50周年記念ということもあり愛知県からも多くの先生方が表彰受賞の荣誉に輝かれました。ここに改めてお祝いを申し上げますとともにご紹介をさせていただきます。

平成16年度 表彰受賞愛知県学校薬剤師会会員紹介

深萱 宏	旭日双光章（春）
春山 善子	愛知県条例表彰（教育文化功労者）
高山 貞夫	厚生労働大臣表彰
村松 喜彦	文部科学大臣表彰（学薬制度50周年記念）
酒井 廣三	〃
中島 康之	〃
大杉 邦榮	〃
小口 光夫	〃
河野 誠	〃
米倉 自子	〃
坪井 幹夫	〃

（以上、敬称略 本号県薬紹介欄記事参照）

村松 章伊	教育委員会表彰（教育功労賞）
樋口 光司	愛知県知事表彰（薬事功労）
日比野正徳	名古屋市教育委員会表彰（優良職員表彰）
加藤 肇	日本学校薬剤師会表彰（河合・可児・永山賞）（敬称略）



村松 章伊先生



樋口 光司先生



日比野正徳先生



加藤 肇先生

第 54 回 全国学校保健研究大会報告 (郡山市)

平成 16 年 10 月 28 日・29 日

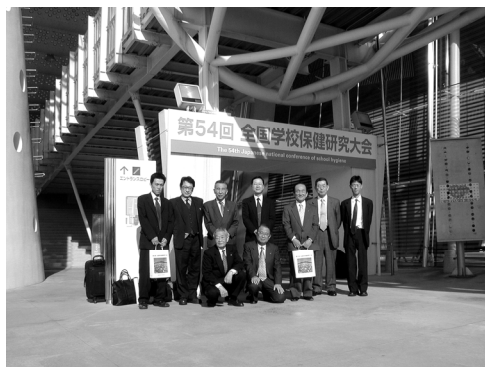
―ヘルスプロモーションの視点に立つ健康教育推進の在り方―

愛知県薬剤師会学校薬剤師部会部員 沖 晃一

< 28 日 >

今大会の主題は、「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進―ヘルスプロモーションの理念に基づいた子どもたちの健康づくり―」でした。今般の児童生徒の健康をめぐる問題としては、生活習慣病の兆候、性の逸脱行為、喫煙及び薬物の乱用、様々な要因による心の病などがあり、心身の健康に深刻な影響を及ぼしています。

こうした中で学校は、家庭や地域との連携を一層深め、子どもが自らの健康課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に行動できるようなたくましい生きる力をはぐくむ教育を推進していかなければなりません。健康は人生や生活にとって大切なもので、それは、自分自身の生活習慣や生活行動を改善したり、環境に積極的に働きかけ、より良くつくり変えるなど普段の努力によって得られるものです。学習や体験の中で、課題をみつけ、解決し、適切な意思決定・行動選択の下に健康によい行動が実践できるようにすることをめざします。このように、子どもに生きる力をはぐくむためには、児童生徒の個に応じた指導の充実を図るとともに、開かれた学校づくりを進める観点から、地域の方々とともに、学校薬剤師も子どもたちのサポーターとなっていきたいとのことでした。このシンポジウムでは、そのような観点よりヘルスプロモーションの解題・国際的な流れ・学校教育活動・行政からの推進・実践に当たっての現状と課題などを 4 題の発表がありました。



< 29 日 >

研究協議会 第 8 課題

―快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方―

快適な学習環境をつくるためには、環境衛生活動の充実を図るとともに、児童生徒が環境問題について自ら関心を持つことが必要です。このため、学校環境衛生の基準を踏まえた学校環境衛生活動の進め方について協議されました。

学校環境衛生の基準は、近年の社会環境の変化等を踏まえた見直しを行い、平成 16 年 2 月に改定されました。学校薬剤師は、環境衛生検査を行い、その結果が適合しない場合、不適内容に応じた事後措置を適時、的確に講じる必要があります。一方で、学校薬剤師が行う環境衛生検査は、あくまで手段であり、目的ではありません。環境衛生検査や日常点検の結果を適切に評価し、日ごろの学校衛生活動につなげることが重要です。

このことを踏まえ、学校保健計画にて、組織的・計画的に学校環境衛生活動の行動策定を行い、学校環境衛生管理の徹底を図るとともに、総合的な学習の時間や児童生徒会活動を通じて児童生徒が主体的に取り組む環境教育の推進を行った2校の発表と、環境検査結果が意味するもの、その結果が健康に及ぼす影響について伝え、教育活動へ橋渡しした学校薬剤師の取り組みの実例が発表されました。

環境を守ることの大切さを通じ、自分を大切にすることを教え、同様に他人も大切にすることにより、命の尊さを認識させることが大きな目標になります。性教育にも、薬物乱用防止教育へも結びつくと思いました。それも、児童生徒に届くことばとして伝えなければなりません。そのためにも環境衛生活動を体験しながらの教育が必要に感じました。

研究協議会 第10課題

—安全でゆたかな社会と健康を守り育てる喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方—

愛知県学校薬剤師会理事 吉村茂樹

4名の研究発表者が「薬物乱用」・「薬物依存」・「薬物中毒」の意味を理解することの重要性、ライフスキル教育（心の能力）の実践を通して安全で豊かな社会と健康を守り育てる喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の進め方、高等学校教科保健体育（科目保健）における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に関する指導計画の作成及び実践・改善について、関係機関との連携による中学校における喫煙防止教育の進め方、県・学校・地域社会との連携による喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の進め方について発表・協議した。

現代社会における深刻な社会問題だけに、学校・家庭及び地域社会との連携を図って、各々の防止教育に関する指導計画の作成及び実施・改善や学校における防止教育の進め方、社会全体による「防止教育」の進め方について考えて行かねばならない。



第54回 全国学校薬剤師大会報告書（ホテル華の湯）

平成16年10月29日（金）

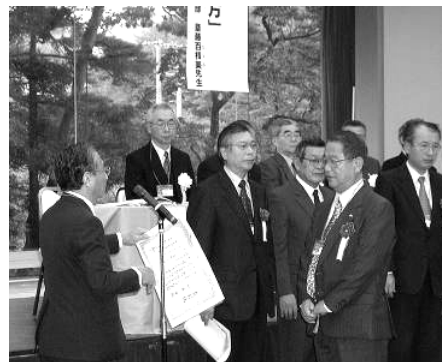
—生涯を通じて、心豊かにたくましく「生きる力」をはぐくむ健康教育の推進—

愛知県学校薬剤師会理事 杉本 匡

第54回全国学校薬剤師会が上記日時・会場にて開催されました。杉下順一郎氏（日本学校薬剤師会会長）のご挨拶をはじめ、ご来賓の方々によるご祝辞の後、日本学校薬剤師会表彰、日本学校薬剤師会感謝状の各表彰と文部化学大臣表彰者への記念品贈呈が行われました。

築城敬直氏（日本学校薬剤師会副会長・愛知県学校薬剤師会副会長）より審査経過報告が行われた後、表彰式が行われました。

今年度は愛知県から下記の方々が各賞に選出・表彰されました。おめでとうございます。



〔日本学校薬剤師会表彰〕

加藤 肇 （愛知県学校薬剤師会理事）

〔日本学校薬剤師会感謝状〕

児玉 和江 （保健主事）

田島えみ子 （養護教諭）

藤吉 裕子 （学校カウンセリング研修会講師）

前田富佐代 （養護教諭・保健主事）



表彰式終了後は、斎藤百枝美先生（福島県立医科大学医学部付属病院薬剤部）より「児童・生徒に教える薬の正しい使い方」と題して、特別講演が行われました。

日本の義務教育において「薬の正しい使い方」に関する授業やテキストがないため、フランスの授業（9歳～18歳に教育が行われている）を参考にテキストを作成し、「薬の正しい使い方」授業を実施したこと、また児童・生徒に興味をもってもらえる分かりやすい授業にする方法やチームティーチング（薬剤師と担任・養護教諭が役割分担をして行う授業）の必要性等について、先生の体験談を交えながらご講演をいただきました。

特別講演終了後、次期開催県代表挨拶（滋賀県薬剤師会）が行われ、閉会となりました。



平成 16 年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会報告書

愛知県学校薬剤師会理事 杉本 匡

日 時 ：平成 16 年 11 月 18 日(木)・19 日(金)

開 催 地 ：茨城県（水戸市）

会 場 ：全 体 会 <水戸市民会館>

部 会 別 分 科 会 <水戸市内 2 会場>

「学校環境衛生及び薬事衛生について研究
協議を行い、もって健康教育の充実を図る。」



【第一日目 全体会】

第一日目の全体会は、水戸市民会館（ホール）にて開催されました。開会式の後、下記講義 2 題と特別講演 1 題が行なわれました。

講義 1：『学校環境衛生管理の充実』

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育調査官 鬼頭 英明 氏
平成 16 年 4 月 1 日に施行された「学校環境衛生の基準」の一部改訂の解説をはじめ、シックハウス症候群、二酸化窒素・ダニ・ダニアレルゲン、飲料水等の水質管理について説明が行われました。児童生徒の健康保持増進と学習効果を上げるためには学校環境衛生の維持・充実は不可欠であり、学校薬剤師からの助言・指導をもとに適切に実施していくこととのことで、

学校側と薬剤師との関係の重要性を指摘されました。

講義 2 : 『化学部の生徒と共に霞ヶ浦の水質を調べて 1 2 年』

茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課（前茨城県立土浦第二高等学校） 長谷川 博 氏
霞ヶ浦の水は茨城県の地域発展に不可欠な資源であるにもかかわらず、1970 年代からの水質の急激な悪化について次世代を担う高校生による水質汚濁の調査・研究が行われていなかったことを受け、茨城県立土浦第二高等学校化学部が 1991 年から行ってきた研究の内容・成果について報告が行われました。地域企業・住民も一体となって地道に行われた熱心な研究の成果として、テレビへの出演・本の出版・各研究賞の受賞にも繋がったとの内容でした。

特別講演 : 『子どもの力の引き出し方 ～これが木内マジック～』

第 85 回全国高等学校野球選手権大会優勝監督・常総学院高等学校副理事長 木内 幸男 氏
半世紀を越える高校野球の監督生活を振り返り、生徒達と同じ目線にたってどのように触れ合い、指導してきたかを、ユーモアたっぷりにお話されました。目標を高く設定し、それを実現していくための方法や生徒への伝え方など四六時中野球のことを考え活動されてきた情熱が感じられた素晴らしい講演でした。



【第二日目 部会別分科会】

第 2 日目は部会別に水戸市内 2 会場 4 ヶ所に分かれて開催され、我々は学校保健委員会・学校環境部会（水戸市民会館）にて受講をしました。

研究主題：学校保健委員会活動を通した学校環境衛生の活性化

上記主題に沿って以下 2 名による研究発表が行なわれました。

研究テーマ 1 : 『緑いっぱい 笑顔あふれる 土庄つ子 ～強く豊かな心と体を育てる学校環境をめざして～』

香川県土庄町立土庄小学校 養護教諭 岡上 京子 氏

学校環境に関する児童の意識調査を行い、この結果を踏まえて家庭・地域・関係機関の協力を得ながら、学校薬剤師との連携を密にし取り組んできた学校環境衛生活動の報告や自然環境に恵まれている土庄小学校独特の学習方法の紹介を含めて発表が行われました。

研究テーマ 2 : 『不快害虫駆除 ～ホウ酸団子によるゴキブリ駆除～』

茨城県学校薬剤師会 大曾根 清朗 氏

ある学校で大量のゴキブリが発生したことが始まりで取り組んでいる各学校でのゴキブリの駆除やデータ収集など薬剤師会の活動について発表されました。業者依頼の害虫駆除は高額であるため、薬剤師会にて改良を重ねながら作ってきたホウ酸団子の紹介や設置場所の検討・成果、ゴキブリが発生しやすい気候との関係など不快害虫許容水準以下に維持していくための管理や今後の調査課題などが報告されました。

上記発表に対する質疑応答が行なわれた後、主題に沿った様々な研究協議が行われました。最後に岡山県教育庁保健体育課健康教育班・総括副参事の坂根清貴氏、日本学校薬剤師会・常務理事の石川哲也氏の指導助言を受け、全日程を終了しました。

平成16年度 県内一斉調査

—学校環境衛生活動に関する実態調査—

愛知県学校薬剤師会

A はじめに

学校の環境衛生に関して日々の実態を把握し問題があればすみやかに改善しなければならない。
今回現場から、どのような活動が実施されているか集計し、その現状を調査した。

名古屋市幼小中学校 376校 県内幼小中学校 1,002校 県立高校 179校

B 調査結果

1. 年間勤務回数(1日に1時間以上在校)

	0回	1～10回	11～20回	21回以上	無回答
名古屋市幼小中学校	5名 (1%)	223名 (59%)	137名 (36%)	11名 (3%)	
県内幼小中学校	58名 (6%)	832名 (83%)	108名 (11%)	4名 (0%)	
県立高校		142名 (79%)	30名 (17%)	3名 (2%)	4名 (2%)

2. 執務記録簿の記入

	学校薬剤師	学校側	なし	無回答
名古屋市幼小中学校	68名 (18%)	248名 (66%)	60名 (16%)	
県内幼小中学校	237名 (24%)	617名 (62%)	148名 (15%)	
県立高校	59名 (33%)	110名 (61%)	7名 (4%)	3名 (2%)

3. 学校保健委員会

	発表	出席	欠席	開催されず	無回答
名古屋市幼小中学校	75名 (20%)	241名 (64%)	32名 (9%)	28名 (7%)	
県内幼小中学校	61名 (6%)	263名 (26%)	492名 (49%)	173名 (17%)	13名 (1%)
県立高校	22名 (12%)	86名 (48%)	27名 (15%)	13名 (7%)	31名 (17%)

4. 学校の講演会で講師として発表したか?

	発表した	未発表	無回答
名古屋市幼小中学校	27名 (7%)	339名 (90%)	10名 (3%)
県内幼小中学校	56名 (6%)	944名 (94%)	2名 (0%)
県立高校	7名 (4%)	169名 (94%)	3名 (2%)

5. 全国及び県内一斉調査は提出したか?

	提出した	未提出	無回答
名古屋市幼小中学校	354名 (94%)	10名 (3%)	12名 (3%)
県内幼小中学校	970名 (97%)	14名 (1%)	18名 (2%)
県立高校	174名 (97%)	2名 (1%)	3名 (2%)

6. 学校薬剤師講習会(2月)に参加したか

	参加した	不参加	無回答
名古屋市幼小中学校	153名 (41%)	223名 (59%)	
県内幼小中学校	466名 (47%)	532名 (53%)	4名 (0%)
県立高校	101名 (56%)	68名 (38%)	10名 (6%)

7. 環境衛生検査の実施状況

①照度及び照明環境

	学校薬剤師	学校	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	372名 (99%)		4名 (1%)	
県内幼小中学校	808名 (81%)	98名 (10%)	96名 (10%)	
県立高校	157名 (88%)	13名 (7%)	3名 (2%)	6名 (3%)

②騒音環境及び騒音レベル

	学校薬剤師	学校だけ	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	373名 (99%)		3名 (1%)	
県内幼小中学校	192名 (19%)	29名 (3%)	751名 (75%)	30名 (3%)
県立高校	42名 (23%)	5名 (3%)	125名 (70%)	7名 (4%)

③教室の空気(ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物以外)(件数)

I.「自然環境下(5～7月)」

	学校薬剤師	学校だけ	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	162名 (43%)	2名 (1%)	206名 (55%)	6名 (2%)
県内幼小中学校	354名 (35%)	98名 (10%)	538名 (54%)	12名 (1%)
県立高校	136名 (76%)	8名 (4%)	28名 (16%)	7名 (4%)

※問題点・要改善点

- 二酸化炭素濃度が基準値を超える教室あり、換気を指示する事。
- コンピュータールームで二酸化炭素濃度が上がり易い。
- 換気扇の導入の検討
- 環境衛生の調査は外部機関に依存している
- 廊下の窓、教室のドアを開放し良い環境の維持に努める。

II.「人工環境(暖房2月～3月) 実施件数

	学校薬剤師	学校だけ	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	333名 (89%)			43名 (11%)
県内幼小中学校	501名 (50%)	106名 (11%)	378名 (38%)	17名 (2%)
県立高校	148名 (83%)	5名 (3%)	19名 (11%)	7名 (4%)

④教室等の空気(ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物)

I. 検査の実施(件数)

	学校薬剤師	学校だけ	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	164名 (44%)	1名 (0%)	208名 (55%)	3名 (1%)
県内幼小中学校	598名 (60%)	80名 (8%)	317名 (32%)	7名 (1%)
県立高校	61名 (34%)	8名 (4%)	100名 (56%)	10名 (6%)

II. 検査結果

	基準値以内	基準値超過
名古屋市幼小中学校	153名 (93%)	12名 (7%)
県内幼小中学校	493名 (73%)	185名 (27%)
県立高校	48名 (70%)	21名 (30%)

III. 基準値超過施設(ホルムアルデヒド)平均濃度

	施設数	濃度
名古屋市幼小中学校		
県内幼小中学校	185	0.11ppm
県立高校	21	0.15ppm

IV. 基準値超過の際の措置

	喚起励行のみ	再検査の実施	その他
名古屋市幼小中学校	12名 (100%)	12名 (100%)	5名 (42%)
県内幼小中学校	121名 (65%)	56名 (30%)	8名 (4%)
県立高校	1名 (5%)	21名 (100%)	1名 (5%)

※問題点・要改善点

- 平成16年4月から使用の新設校舎でホルムアルデヒドの濃度が高い。
市には建材への配慮を求めたい。
- 使用時の換気に注意する必要あり。

- 換気の励行が功を奏しホルムアルデヒド濃度に差が有る。
- 気象条件により検査値に誤差が生じるのではないか？
- 授業中に使用する接着剤がホルムアルデヒド濃度を変える。
- ポスター等の印刷物を貼らないようにする。
- 基準値の少ないところは換気の励行が手軽で有効な対策である。

⑤飲料水の管理

I. 水質検査(実施件数)

	学校薬剤師	学校だけ	未実施
名古屋市幼小中学校	375名 (100%)	1名 (0%)	
県内幼小中学校	750名 (150%)	251名 (50%)	19名 (4%)
県立高校	146名 (82%)	31名 (17%)	2名 (1%)

II. 10項目検査はしているか。

	全て	一部	無回答
名古屋市幼小中学校	333名 (89%)	32名 (9%)	11名 (3%)
県内幼小中学校	376名 (38%)	535名 (53%)	
県立高校	117名 (65%)	50名 (28%)	12名 (7%)

⑥食品衛生(学校給食)

I. 給食方式

	自校方式	センター方式	なし	無回答
名古屋市幼小中学校	246名 (65%)	86名 (23%)	38名 (10%)	6名 (2%)
県内幼小中学校	213名 (21%)	775名 (77%)	14名 (1%)	
県立高校	38名 (21%)	0名	85名 (47%)	56名 (31%)

II. 自校方式給食施設検査実施者(数)

	学校薬剤師	行政
名古屋市幼小中学校	234名 (95%)	12名 (5%)
県内幼小中学校	147名 (69%)	66名 (31%)
県立高校	27名 (71%)	11名 (29%)

III. センター方式給食施設検査実施者(数)

	学校薬剤師	行政
名古屋市幼小中学校	54名 (63%)	32名 (37%)
県内幼小中学校	172名 (22%)	603名 (78%)
県立高校	0名	0名 (0%)

⑦プールの管理

I. プール水の5項目検査の実施者

	学校薬剤師	学校	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	360名 (96%)	名	1名 (0%)	15名 (4%)
県内幼小中学校	870名 (87%)	120名 (12%)	5名 (0%)	7名 (1%)
県立高校	147名 (82%)	21名 (12%)	5名 (3%)	6名 (3%)

II. プール水の5項目検査の頻度

	開場期間月1回	月1回以下	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	346名 (92%)	11名 (3%)	19	
県内幼小中学校	666名 (133%)	199名 (40%)		137名 (14%)
県立高校	116名 (65%)	33名 (18%)	30名 (17%)	

III. 総トリハロメタンの検査実施者(数・割合)

	学校薬剤師	学校	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	348名 (93%)		6名 (2%)	22名 (6%)
県内幼小中学校	679名 (68%)	136名 (14%)	54名 (5%)	133名 (13%)
県立高校	99名 (55%)	43名 (24%)	9名 (5%)	28名 (16%)

IV. 循環ろ過装置の処理水質(ろ過器出口の濁度)検査実施者(数)

	学校薬剤師	学校	未実施	無回答
名古屋市幼小中学校	345名 (92%)	2名 (1%)	1名 (0%)	28名 (7%)
県内幼小中学校	592名 (59%)	180名 (18%)	100名 (10%)	130名 (13%)
県立高校	98名 (55%)	50名 (28%)	9名 (5%)	22名 (12%)

※問題点・要改善点

- 市に古い濁度計しかなく、又購入する予算を認められないので考慮が必要。
- プールの老朽化による水質汚染を懸念している。
- 残留塩素濃度が低い場合があり適切な塩素濃度の維持が必要。

⑧検査時の費用負担(施設数・割合)

	教育委員会	学校	各支部学薬	無回答
名古屋市幼小中学校	267名 (71%)	11名 (3%)	92名 (24%)	6名 (3%)
県内幼小中学校	841名 (84%)	33名 (3%)	97名 (10%)	31名 (3%)
県立高校	31名 (17%)	132名 (74%)	10名 (6%)	6名 (3%)

考察

1. 学校薬剤師の勤務実態と活動状況に関する設問では、1時間以内で終える検査があり、確かな数値がつかめなかった。年間1回～10回に集中しており年間21回以上が少数あった。
執務記録簿記入に関しては、必ず記入することが義務付けられているが、半数以上が記入していない。
学校保健委員会への参加は開催されなかった所を考慮に入れても、より積極的な参加を期待したい。
学校薬剤師講習会への出席率がとても悪いので講習会等にさらなる関心を向けてもらいたい。
全国、県内一斉調査は100%に昇っている。
2. 照度及び照明環境は大部分の施設で行われており学校薬剤師による検査回数は毎年約1. 1回
騒音環境騒音レベルの検査は大部分実施されていない。
教室等の空気検査は自然人工環境において5割を上回る施設で未実施。
夏、窓を開放してCO₂値の測定は意味がない様に思う。
3. 給食センター方式が80%近く、衛生検査は85%が行政に委ねている。
4. プール水の5項目の検査は学校薬剤師と学校とでかなり実施されてる。
検査に係る費用は大部分、教育委員会が負担している。

今後の課題として、個々の学校薬剤師のレベルアップを図る事の必要性を大いに感じさせられる。

回収率 名古屋幼少中学校 95% 県内幼少中学校 95% 県立高校 77%
(加藤 肇・酒井 廣三・中島 康之・木全 勝彦・亀谷 みどり・夏目 章子・春山 善子)